

## 大気質における予測結果の信頼性について

## 予測結果の信頼性

大気質の予測条件については、既存の長野市清掃センターが稼働している現況の中で、地域の特性を考慮し、設定しています。

この予測に用いた計算式及び気象条件は次の表に示すとおり、地域の特性を反映し、また、バックグラウンド濃度及び発生源条件は、影響が最大となる条件を設定しており、予測値は危険側となるよう考慮しています。

このことから、予測結果は環境影響を評価する上で、十分に信頼性があるものと考えています。

### 予測結果の信頼性に関わる予測条件の設定内容

項目	予測条件の設定内容	予測結果の信頼性
拡散の予測計算式	予測式は、長期評価については、プルーム式、パフ式により予測を行っている。また、短期評価についてはそれぞれの現象に応じた予測式を採用している。	対象事業実施区域は平坦な地形であり、現況調査の流跡線調査において有風時には一定方向の軌跡線であったことから、地形等による風の乱れは確認されなかった。また、現況調査結果において特殊な気象条件もみられなかった。 このことから、煙突排ガスの予測については、一般的な拡散式の採用は適切と考える。
気象条件の設定	対象事業実施区域における、通年の気象測定の実測値を使用している。	現地の気象測定の実測値を使用していることから、予測条件としての信頼性は高い。 また、風向・風速については、長野地方気象台の過去10年間の異常年検定を行い、調査期間が特殊な気象状況でなかったことを確認していることから、予測条件として現況調査結果を採用することは適切と考える。
バックグラウンド濃度の設定	長期評価においては、現況調査結果の年平均値が最大の地点の値を、また、短期評価においては現地調査結果の1時間値の最大値をバックグラウンド濃度設定している。	複数の測定地点の結果から、予測対象物質毎に最大値を使用していることから、予測結果については影響が大きくなる危険側を考慮していると考ええる。
発生源条件	排ガス濃度	排ガス濃度は施設稼働にあたって管理を行う計画値を設定している。 計画値については、稼働時の最大値を想定したもので、定常的稼働においては計画値以下に濃度が保たれることから、予測を行うにあたっては適切な条件設定であると考ええる。
	排ガス量	環境影響評価用の概要設計を基に、複数のプラントメーカーから排ガスの基本情報を入手し、最大の場合と最小の場合の2ケースを設定し、環境負荷が最大となる条件としている。 排ガス量が多い場合には排ガス強度が大きく、影響が大きくなる可能性がある。また、排ガス量が少ない場合には吐出速度が遅くなりダウンドラフト、ダウンウォッシュが生じる可能性が高くなる。 最大ケース、最小ケースの2ケースの設定により長期濃度予測、短期濃度予測ともに影響が大きくなる危険側を考慮していると考ええる。